

レポート：JICA シニアボランティアの活動報告

シニアボランティア：杉山 允宏

活動期間：2010年10月～2012年10月

配属先：グアテマラ市国立ラ・デモクラシアスポーツ公園

柔道指導活動

グアテマラにおける私の活動の課題・目標は「グアテマラ柔道を質的に高める方法を探る」でした。その達成に向けて、学校体育および柔道クラブ指導や柔道大会参加および審判員としての参加、それから国内大会・セントラルアメリカ柔道大会の「投の形」審査委員長を務めたり、柔道エキシビション・デモンストレーションや柔道の形指導・講習会を開催したりしました。また、柔道着50着の寄贈の実現、日本柔道畳146畳無償供与を記念とした道場開き「紅白柔道大会」の開催に加えて「杉山柔道選手権大会」を8回まで実施しました。

グアテマラ人の柔道練習は立技も寝技も男女混合で行います。日本武道の「礼節」の理解度の困難であったことに加え、装飾品を身に着け外さない、また靴下を脱ぐことを嫌う、そして正座が難しい等、異文化の相違がみられました。

2年の間に、国立柔道連盟で日本伝統柔道の形や技を若者たちに指導しました。その中の一人、19歳のDarrel選手は、100kg超級でグアテマラ共和国から10年ぶりにロンドンオリンピックの選手として出場。結果は皮肉にも日本の上川選手に50秒で投げられ敗退するものとなりました。

柔道の形では、投の形6組、固の形3組、柔の形3組、極の形3組、五の形3組が合格水準に達し、大会時に演武できるようになり、古式の形については十分な完成に至りませんでした。第8回大会で演武することができました。

「杉山柔道選手権大会」を2012年9月22日の第8回まで実施することができたこと、そしてグアテマラ人だけで大会運営が可能になったことも顕著な成果としてここに述べたいと思います。

今回の活動の最大の成果は日本伝統柔道の指導を通して、日頃練習する柔道の技が取り入れられている「柔道の形」が演武できるようになったこと、そして杉山柔道大会で試合経験を積み、礼節や心身の力の向上につながったことです。

